

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

きょう ねんせい ねんせい どうこう がくねん いちど どうこう じゅんちょう
今日は2年生と12年生が登校し、これですべての学年が一度は登校したことになります。これから順調に

ぶんさんどうこう すす いの
分散登校が進んでいきますようにと祈るばかりです。

きょう はなし すいようび ちい できごと しごと お ほんかんこうしゃ で しょうがっこうこうしゃ お
今日お話ししたいのは、水曜日の小さな出来事です。お仕事を終えて本館校舎を出ると、小学校校舎の向こ

がわ にし そら ま か そ き が つ き ま し た 。 ま か こ あか
う側、西の空が真っ赤に染まっているのに気がつきました。真っ赤といっても濃い赤ではなく、オレンジ色が

か っ た と て も し ん び て き あか おも ひ と り こ え だ み み
かったとても神秘的な赤です。思わず「わーっ」と一人で声を出してしまいました。見る見るうちにその色は

うす しゅんかん た あ うつく ゆうや み かんどう
薄くなっていきましたので、ちょうどよい瞬間に立ち会ったのかもしれませんが。美しい夕焼けを見て感動し、

しあわ き も いちにち お できごと
幸せな気持ちになりました。一日の終わりに、ほっとさせられた出来事でした。

うつく み かんどう き も
美しいものを見て感動する気持ち、これは「Sense of Wonder」ということができます。「沈黙の春」とい

ほん にほん わだい かた し
う本で日本でも話題になったレイチェル・カーソンという方を知っていますか。そのレイチェル・カーソンの

ちよしよ かみとおけいこやく ひ よる ひさ
著書「The Sense of Wonder センス・オブ・ワンダー」(上遠桂子訳)のことを、その日の夜は久しぶりに

おも だ ほん さいご の しぜん お
思い出しました。その本の最後でレイチェル・カーソンは述べています。「自然にふれるという終わりのないよ

ろこびは、けってし かがくしゃ だいち うみ そら す おどろ み いのち
ろこびは、けってして科学者だけのものではありません。大地と海と空、そして、そこに住む驚きに満ちた生命

かがや み ひと て
の輝きのもとに身をおくすべての人が手にいれられるものなのです。」

とうげこうちゅう しょうがくせい み せかい しんせん おどろ かんどう み あふ おし
登下校中の小学生を見ていると、どれほどこの世界は新鮮で驚きと感動に満ち溢れていることが、教えら

れることがたびたび ねんれい あ おどろ うす おとな な
れることが度々あります。年齢が上がるにつれてその驚きは薄れ、大人になるとすっかり慣れっこになってし

まうのかも いま なや わたし とき せかい おどろ
まうのかも 今、ウィルスに悩まされている私たちですが、そんな時でも、この世界はやはり驚

きと かんどう み あふ ひび せいかつ なか ちい
きと感動に満ち溢れているのではないのでしょうか。どうぞ日々の生活の中で小さな「Sense of Wonder」に

て あ い よろこ
出会い、そこから生きる喜びをいただくことができますように。

